令和３年度　第１回　学校運営協議会まとめ

大阪府立泉北高等支援学校

【１】　実施日時　　令和３年７月９日（金）午後３時30分～午後５時

【２】　実施場所　　本校応接室

【３】　出席委員　田村　仁彦氏　(元堺市立上神谷支援学校　校長)　協議会会長
　　八田　忠敏氏　(元社会福祉法人コスモス理事長)　会長代理
　　井上　直子氏　(堺市子ども相談所参事)
　　松林　利典氏　(堺市障害者就業・生活支援センター　センター長)
　　徳　和則氏　(堺市立上神谷支援学校校長)
　　藤井　依子氏　(大阪府立泉北高等支援学校 PTA 会長)

【４】　内　　容

①　開会(教頭)

配布資料を確認

本日の協議会の成立を確認

②　校長挨拶

③　会長・委員自己紹介

④　協議

（１）　「令和３年度学校経営計画」について

校長より中期目標３点の中から重点目標を中心に説明を実施

１　生活自立コース、社会自立コース、就労支援コースの教育課程等の充実を図る。

（１）教育課程の改善

次年度からの学習指導要領が変わる。カリキュラムマネジメント、教育課程の改善ができるサイクルを作る。教育課程検討委員会を中心に、評価と見直しをしながら授業改善を進めていく。

（２）職業に係る授業を通じ、生徒のチャレンジする意欲を育む。

就労支援コースだけでなく、各コースでキャリア教育を進めていく。

（３）個別の教育支援計画、個別の指導計画等の充実を図る。

学びの連続性を大切に個別適切な支援をし、授業改善に努める。

２　支援教育力の向上

（１）思春期における課題への支援、健康教育等の充実を図るとともに、教職員の専門性の向上を図る。

思春期を迎える生徒の心の機微を感じながら、教員の専門性を高めていく。学校全体でＯＪＴとして向上していけるよう取り組む。

（２）センター的機能の役割をしっかりと果すとともに地域連携の充実に努める。

校内支援はもとより、取り組みを地域に積極的に発信できるよう努める。

（３）ＩＣＴを活用して支援教育力の充実を図る。

リモート、オンラインの活用が必要となっている。

３　安心で安全な学校環境づくり

（１）　生徒が自身の健康管理に努め、生徒同士がお互いに人権を尊重する学校づくりを進める。

コロナ感染予防に生徒自身が努められるようにしていく。人権に配慮した指導を行う。

（２）危機管理体制を更に堅固なものとする。

コロナ対応だけでなく、引き続き年間の避難訓練、生活安全、交通安全、防災安全、に引き続き取り組んでいく。

（３）部活動生徒（生活）指導の充実を図り、自己肯定感を育成する。

コロナ感染の拡がりによって活動が十分に行えない状況であったが、生徒の自己肯定感を高めるためにも自主的な活動が必要であり、より充実させていく。生徒指導の場面では、様々なトラブルが起こるが、毅然と対応し、特別指導を行う。規律、ルールを守りながら、自己コントロール力を育んでいく。

評価指標について

１（１）について、改善していくことを前提にしていく。学校は保守的な組織になりがちであるが、社会は変化していく。チェック＆アクションで、学校も変化に対応していく。

（２）　について、キャリア発達が重度の生徒にも必要である。自己理解、役割意識、コミュニケーション、表現、生きがいを持って社会で生きていく。生涯にわたるキャリア発達、職業教育が必要である。授業研究を進めていく。外部機関との連携も行っていく。進路指導部を中心として、個に応じた適切な進路支援を行っていく。

（３）については、長期目標を達成するための短期目標、具体的な目標設定を行い、学習内容、教育課程に発展させていく。

２（１）については教員の専門性のさらなる向上に尽きる。特別支援教育の専門性、思春期の心理的な課題について、支援指導をする。20 代、30 代の教員に伝達していくことが大切。

（２）については引き続き、外部の機関とも連携し取り組みを進める。

（３）について、情報化、ツールを利用してより効果的な取り組みを進め、教員の力量を向上させる。

３（１）（２）（３）について、コロナの影響で部活動が思うように活動できない状況ではあるが、これから入部を考える生徒も増えてくると考えている。卒後の余暇は大切。人生を過ごす中で大切。本当の充実感や自分を発見していく。先生方にお願いしているところである。いじめ（自己肯定感の低さ）に発展することがないように対応し、見守りをしていく。何かあれば、コンサルテーションを行う。よってたかって支援をしていく。

意　見　・個別の教育支援計画の引継ぎを確実にするとともに、その計画がどのように生かされたのか、活用されたのかのフィードバックをぜひ行ってほしい。保護者の共有できるツールとして小中の先生方にも自信となっていくのではないか。

⇒小中からのアセスメントとして大切にしたい。

・進路先として、A型の事業所が非常に少なくなっている。進路として進めていないのか、なぜなのか。

⇒ビジネスモデルとして適切な運営をしていかなければならない。最低賃金を支払っていく。経営として成り立たなければいけない。生産性を求められる。参入も厳しくなっている。もともとも経営計画がしっかりしているところもある。企業とは違って、フォローできる支援者が担保されているという強みはある。A型の事業所が減っているわけではない。企業の参入もある。

・自立訓練の事業所を希望する人も増えている。内容も様々。選択肢が増えているように感じている。

・個別の教育支援計画の引継ぎができていることに、安心した。４～5 年前はまだまだ引継ぎができていない状況であったかと思う。個別の教育支援計画を中心にした授業づくりはどのようにとりくんでいるのか。教員の入れ替わりもある。研究授業の取り組みなどは行えているのか。

⇒公開研修はコロナの状況で現在は行えていないが、校内では研究授業を予定している。

・進路のＢ型希望者が多いのか。情報提供など、保護者にどのように伝えているのか。

⇒「進路のしおり」を毎年配布している。進路懇談会は、緊急事態宣言で中止になったため、ＨＰ上で内容を公開する予定。事業所からのパンフレットなどは、保護者に配布している。合同事業所説明会も開催が延期されているが、実施していく予定。

・コロナの状況次第だが、合同でできることや、協力できることがあると思う。教員の年齢構成がいびつになっている状況で、通常なら、先輩に聞いていくと思うが、スーパーバイズできる人がいなくなる。

⇒教員の年齢構成は、細くなっているところが屋台骨になっている。指導書に書いていないことは、人と人の摩擦が必要。経験のない教員に、経験豊富な教員からうまく伝達できない。言語化する。一緒に指導していく中で、一つ一つ解決していくことが自信につながっていくのではないか。一つ一つ丁寧に学びあえる学校にしていきたい。

・なされている取り組みを伺うと、思春期ならではの視点がある。思春期の課題、そこに焦点を当てることは、ほかの機関にはない。自立は目の前。大切な観点である。そこに伴う性の問題はまわりの大人を見て育っていく。泉北ではよくみていただいている。児童養護施設に入所している子どもたちにもその後の自立というところで一緒に考えていただけてありがたい。教員を育てていく、協議の場をどう持つか、意識して考えていかねばならない。

・先生方の中には専門性が本当にあるのかと、感じる方もいる。一方でこんな形で学校のことを考えていただけているのかとびっくりしている。知らなかった。思春期のことを詳しく書いてあるＨＰなど、発信してほしい。思春期の支援や、教員の研修の場がどんな風なのか、わかると保護者としても安心して預けられる。

・コロナ禍で、事業所を利用されている家庭が貧困に陥っていないか、気になっている。また、事業所も非正規職員でないと経営が成り立たない状況である。きっちりとかかわっていく必要があると感じている。貧困に陥った家庭があれば、公的な支援につなげていくことも大切。家庭での、ヤングケアラーの問題もしかり、生徒の発達を見るだけでなく、家庭の生活の背景を含めたうえでみていくことが必要。

　先般の大阪市のコンクリート剥離による事故などもあり、施設の老朽化で生徒や先生方がケガをしないように設備の点検を十分に行って

ほしい。

（２）　教科書選定について
進捗状況について教頭より報告

（３）　その他
保護者からの意見書について
無しの旨を教頭から報告

⑤　会長まとめ
様々なご意見をいただいた。個別の教育支援計画をフィードバックしていただく件についてもよろしくお願いします。

⑥　校長より謝辞

⑦　事務連絡
次回の日程について
11 月 5 日（金）